

# カガヤキ

暫定的補足表題「ウオラントス」  
ラテン語でボランティアの意

No.69(2022.9.1刊行)、広報委員会編集  
茨城県立図書館発行  
禁複写転載©広報委員会

県立図書館ボランティア担当事務局  
からのご挨拶—コロナ禍での活動—

県立図書館普及課  
石井敬之

今回は、新型コロナウイルスの感染拡大が始まってから現在までのボランティア活動について、活動を制限していた方にも分かるようにまとめたいと思います。

令和2年2月から、新型コロナウイルス感染症が拡大し、当初、図書館は全国的に休館が相次ぎましたが、県立図書館も同様に、しばらくの間、休館を余儀なくされました。

ボランティア活動も全面的に休止となり、令和2年の9月頃まで再開のめどが立ちませんでした。9月に一部再開されましたが、その後も新型コロナウイルスの感染拡大がくり返され、自粛するボランティア分野も多く、ボランティアの皆様にも、このまま活動が続けられるか不安に思う方も

出てきました。そのような中でも、多くの方には、ボランティア活動を継続していただき、皆様には、本当に感謝しております。

令和3年度に入ってから、カフェ整備工事などによる休館や新型コロナウイルス感染拡大などで、図書館活動とともに、ボランティア活動も制限され、全面的な再開には至りませんでした。

ボランティア関係のイベントでは、「子ども読書フェスティバル」が令和2、3年の2年続けて中止、「いばらき読書フェスティバル」は、令和2年に中止、ボランティア協議会と全体会も令和2、3年ともに書面開催、ボランティア研修会も令和2、3年ともに中止と、ほぼ、すべてのイベントや会議が中止もしくは書面開催を強いられました。

ボランティアの皆様の声が届きにくくなり、要望などがあっても、伝える機会が極端に少なくなったかと思います。ボランティア担当としても、皆様の声を探り上げて、改善していくことが、より良い図書館へつながると考えていますが、直接お話をする機会が減ってしまい、なかなか要望を聞くことができませんでした。

このようにコロナ禍において、ボランティア活動は縮小を余儀なくされましたが、一方では、活動を再開した児童サービスボランティアの読み聞かせや図書修理ボランティア、広報ボランティア、三の丸書庫ボランティア、郷土資料整理ボランティアや外国語資料整理ボランティア、対面朗読ボランティアなどが、それぞれコロナ感染拡大防止に工夫を凝らしつつ、徐々に活動の幅が広がり、コロナ禍での活動様式が整っ

てきました。この経験が、必ず生きてくると信じております。

また、「いばらき読書フェスティバル」で、ボランティア活動の紹介パネルを展示したり、ボランティア募集チラシを作り、広くボランティアを募ったりと、ボランティアの確保と体制の維持に取り組みました。その結果、令和3年度は、10名以上の新規ボランティアが誕生しました。

そして、令和4年度のボランティア活動においては、約3年ぶりに通常活動が実施できることとなり、コロナ禍において、活動を自粛していた分野のボランティアの皆様にも、ようやく活動の再開をお願いすることができるようになりました。イベントや会議も通常どおり開催できるようになり、ボランティアの皆様からの声を直接お聞きし、提案された要望にも応えることができるようになりました。

また、ボランティアを取り巻く問題のひとつとして、後進の育成がありますが、令和4年度は、すでに、16名の新規ボランティアが誕生し、これからも増える見込みです。新しいメンバーが加わり、ボランティアの皆様の経験や技術が継承され、今後のボランティア活動が末永く続くように祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。これからも、よろしく願いいたします。

## 編集後記

今回は、県立図書館ボランティア担当事務局兼広報グループ担当の石井敬之さんから、コロナ禍の二年間のボランティア活動の様子を報告していただきました。

報告内容からは、徐々に、活動が回復しており、近い将来、支障をきたすような制限は、なくなるのではないかと期待が読み取れます。

石井さんは、原稿を執筆する能力が、相対的に高く、これまでに、通信紙No.52、56、58、62、それから今回と、計五回、協力いただきました。感謝。

今年4月に県立図書館に着任した普及課長の鈴木忠雄さんと館長の小田部修一さんには、着任の挨拶を書いていただきました(前者は通信紙No.65、後者はNo.68に掲載)。両者とも、理想的なまとめ方であり、鈴木さんは、生まれから教職への道、ボランティアへの期待など、自身の人間性をごく普通に表現し、ボランティアとの距離を一気に縮めることことに成功し、いっぽう、小田部さんは、最初から最後まで、県立図書館の現状と課題やボランティアへの期待など、全体的に、バランス良くまとめていただき、両者とも、通信紙の質的向上に寄与していただきました。感謝。

今後は、県立図書館の着任者のみならず、ボランティアの各グループの責任者が交代した際、新任者に、エピソードを含むおもしろい挨拶の原稿を書いていただきたいと考えています。

桜井 淳